

平成19年度 武蔵野市財政援助出資団体経営目標評価シート

団体名		財団法人 武蔵野スポーツ振興事業団						
①	指標名	スポーツ教室参加率			目標値	98	実績値	95
	過去の実績	平成16年度	平成17年度	平成18年度	達成率	96.9%	達成状況	未実施・ 未達成 ・達成
	(単位:%)	87	96	98				
	取組内容	※19年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ① 参加者の増加を図るため、市報・情報誌への掲載、ホームページによる告知、チラシの配布等、情報の提供を積極に行った。 ② 小・中学生向けの教室は、チラシを作成し学校を通して全児童、生徒に配布し、参加者の増加を図った。 ③ 大人向けの教室は、終了後アンケート調査等を実施し、その結果を事業運営に生かすことで市民満足の向上を図り、参加者増につなげる努力をした。						
一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 スポーツ教室全体としては目標値に未達成だったが、参加率の低い教室も存在するため、今後も情報の提供・PR等に努め、参加者の増加を図るとともに、教室の見直しも行って行きたい。							
二次評価	スポーツ教室参加率は昨年、一昨年の実績を下回り、目標を達成できなかった。しかし、参加者アンケートによるニーズ調査や小中学生向け事業の積極的なPRなどを行っている点は評価できる。ニーズに基づく教室の実施はもとより、公共的団体の責務として人気などは別の視点で例えば日本古来の伝統的なスポーツ振興などもあわせて実施し、適切なバランスをとりつつ今後もスポーツ教室の参加率向上に努めること。							
②	指標名	ワンデーレッスン参加者数			目標値	36,996人	実績値	34,056人
	過去の実績	平成16年度	平成17年度	平成18年度	達成率	92.1%	達成状況	未実施・ 未達成 ・達成
	(単位:人)	30,971	34,834	36,271				
	取組内容	※19年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ① スポーツ振興の観点から、幅広く市民が参加できる種目や人気のある種目、時流に沿った種目を実施し、市民ニーズに対応した。 ② 情報提供・PR等に努め、参加者の増加を図った。						
一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 右肩上がりで順調に推移してきたので、前年度より10%を超える数値を設定したが、未達成となった。理由は18年度に始めたピラティスときままなエアロの激減などによると考えられるが、実現可能性の高い17年度の数値ぐらいが目標として適切と考えられる。なお、今後も市民ニーズに対応した種目の実施を心掛けるとともに、情報の提供・PR等に努め、参加者の増加を図りたい。							
二次評価	ワンデーレッスンの参加者については、昨年、一昨年の実績を下回り、目標を達成できなかった。参加者減少の原因を十分に分析・把握していただきたい。そのうえで、市民ニーズの把握やスポーツ関連情報の収集に一層の力を入れ、参加者数の回復に努めることが必要である。							
③	指標名	市民向け事業実施数			目標値	55	実績値	57
	過去の実績	平成16年度	平成17年度	平成18年度	達成率	103.6%	達成状況	未実施・未達成・ 達成
	(単位:本)	51	55	56				
	取組内容	※19年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ① 事業団独自の情報誌を作成し、年度当初に新聞折込による全戸配布によるPRと、併せて市報による募集を行う。 ② 貸切バスについては、参加者の負担増とならないよう、年度当初にバスの年間運行入札を行い、適正な価格で安定した運行に努める。 ③ 毎回、参加者にアンケートを実施し、アンケート結果を有効に活用するため事前に事業地の実地踏査を行い、安全快適で市民満足度の高い事業を実施できるよう、職員が一丸になって取り組む。 ④ 野外活動センターでは、子ども、青少年、中高年にわたり、幅広い事業を開催しているが、今後も内容を常に点検し、安全確保に努めるとともに、市民の要望の多い事業を展開していく。						
一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 事業本数は18年度実績値よりも1本増えて、参加人数も18年度の3,360名から181名増え3,541名となった。各事業の参加者にアンケートも実施したが、概ね好評を得て、貸切バスについては入札を行い参加者の負担増にならないようにした。また、参加した事業について何でこの事業を知ったかとの質問には、DO SPORTSと市報との回答が多く、広く早く周知させる方法として独自の情報誌発行は大きな役割を果たしている。また、参加者の幅広い年齢層に対して、それぞれに満足してもらうために一部事業地の変更(6本)や内容を変更した。							
二次評価	市民向け事業については昨年度に比べ1本増加し、参加者も181名増え、目標を達成した。アンケート結果もおおむね好評とのことであり、内容の良さや綿密な準備、PR活動が効を奏したものと評価できる。今後も市民ニーズの把握に努め良質な事業を展開するとともに、公共的団体だからこそ実施できる独自色のある事業を実施していくこと。							

平成19年度 武蔵野市財政援助出資団体経営目標評価シート

団体名		財団法人 武蔵野スポーツ振興事業団						
財	指標名	自主事業収入			目標値	39,412千円	実績値	37,085千円
	過去の実績 (単位:千円)	平成16年度	平成17年度	平成18年度	達成率	94.1%	達成状況	未実施・ <u>未達成</u> ・達成
		34,794	36,114	38,264				
	取組内容	<p>19年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>参加者の増加を図るため、市報・情報誌への掲載、ホームページによる告知、チラシの配布等、情報の提供を積極的に行った。</p> <p>小・中学生向けの教室は、チラシを作成し学校を通して全児童、生徒に配布し、参加者の増加を図った。</p> <p>大人向けの教室は、終了後アンケート調査等を実施し、その結果を事業運営に生かすことで市民満足の向上を図り、参加者増につなげる努力をした。</p> <p>教室数を増やした。</p>						
一次評価	<p>目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>総自主事業収入としては目標値に未達成でしたが、その理由はハバロフスク冒険キャンプ中止に伴う収入減によるものである。今後は、従来どおり参加率の低い教室も存在するため、情報の提供・PR等に努め、参加者の増加を図るとともに、教室の見直しも行い、また教室数も増やしていきたい。</p>							
二次評価	<p>自主事業収入はハバロフスク冒険キャンプの中止により昨年実績を下回り、目標を達成することができなかった。教室数を増やす取組みや教室への参加率の向上を図ることが必要である。また、「収益的な教室」を企画し「普及・促進的な教室」の経費を賄うような経営感覚も求められる。スポーツ振興事業団の設立目的である「生涯体育」の視点から幅広く市民がスポーツに関心をもち、参加意欲を高める啓発活動を強化し、スポーツ人口の底上げをする役割を一層期待する。</p>							
人 事 組 織	指標名	給与制度の見直し			目標値	能力給与制度の調査	実績値	能力給与制度の研究
	過去の実績 (単位:)	平成16年度	平成17年度	平成18年度	達成率		達成状況	未実施・ <u>未達成</u> ・達成
	取組内容	<p>19年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>東京都の制度導入について研究した。</p>						
一次評価	<p>目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>東京都及び武蔵野市の動向を注視しつつ、制度の調査・研究を進めたい。</p>							
二次評価	<p>給与制度の見直しについて、平成19年度は能力給制度について東京都の制度導入について研究を行うにとどまった。体育館の指定管理者の受託を主な団体の財源としているスポーツ振興事業団にあつては、指定管理者として「経費の削減」、「サービスの質の向上」、「専門的な知識の活用」が同時に求められており、経営者の視点に立って早急に人事・給与制度の構築を行うこと。</p>							